

えのきがいと いせき  
榎垣外遺跡  
発掘調査報告書

(概 報)

平成 24 年度 榎垣外遺跡ほか岡谷市内発掘調査報告書



長野県岡谷市教育委員会

# 序

岡谷市は諏訪湖の北西部に位置し、天竜川の水口を有し、東に八ヶ岳、南には遠く富士山を望み、季節ごとにさまざまな姿を見ることのできる街です。豊富な湧き水や緑深き山々の恩恵を受けて、古来多くの人々が様々な文化を育んでまいりました。

自然の恵みに支えられた岡谷市では、縄文時代をはじめ中世にいたる約 200 箇所の遺跡があり、古くから他の地域との交流や要衝の地として栄えてきました。このような先人の足跡は後世に伝えられるべき遺産であり、市民共有の財産であります。本市では、開発事業に伴う発掘調査を実施し、貴重な資料を記録に残すとともに出土品の保存と活用に取り組んでいます。

本年度は、15 件の遺跡調査を行いました。得られた成果は貴重かつ重要であり、当時の人々の生活や社会を知る上で非常に大きな役割を果たしています。これらの成果は、岡谷市民をはじめ多くの方々に広く公開してまいりたいと考えております。

報告書刊行にあたり、調査にご理解とご協力をいただきました土地所有者ならびに事業主体者の皆様に感謝申し上げます。

本書が、考古学研究に活用されるのみならず、市民の皆様が郷土史に対する理解を深める一助となることを願っております。

平成 25 年 3 月

岡谷市教育委員会

教育長 岩下 貞保

# 例言

1. 本報告書は、榎垣外遺跡発掘調査報告書（概報）である。
2. 事業は、国の平成24年度国宝重要文化財等保存整備費補助金の交付を受けて、岡谷市教育委員会が実施した。
3. 調査は、国の補助金交付を受けた岡谷市教育委員会が、平成24年4月1日から平成25年3月19日まで実施した。整理作業は現場作業の少ない時期に行ったが、十分な整理が終了していないため概要の掲載にとどめてある。
4. 出土遺物、記録図面、写真などの資料は岡谷市教育委員会が保管している。
5. 本報告書の原稿執筆は山田武文が行い、全体の編集・作図は事務局が行った。

# 目次

序

例言

目次

1. 平成24年度 試掘・確認発掘調査の概要…………… 1
  2. 榎垣外遺跡 片間町地区 山道端地籍…………… 3
- 報告書抄録

## 1. 平成24年度 試掘・確認発掘調査の概要

本年度、岡谷市内の周知の遺跡において、農地転用、公共事業等が計画・実施され、岡谷市教育委員会が対応した件数は15件11遺跡である。調査の原因は、個人住宅や駐車場などが10件、詳細分布調査が2件、その他3件となっており、個人による開発事業が遺跡調査の主な原因となっている。

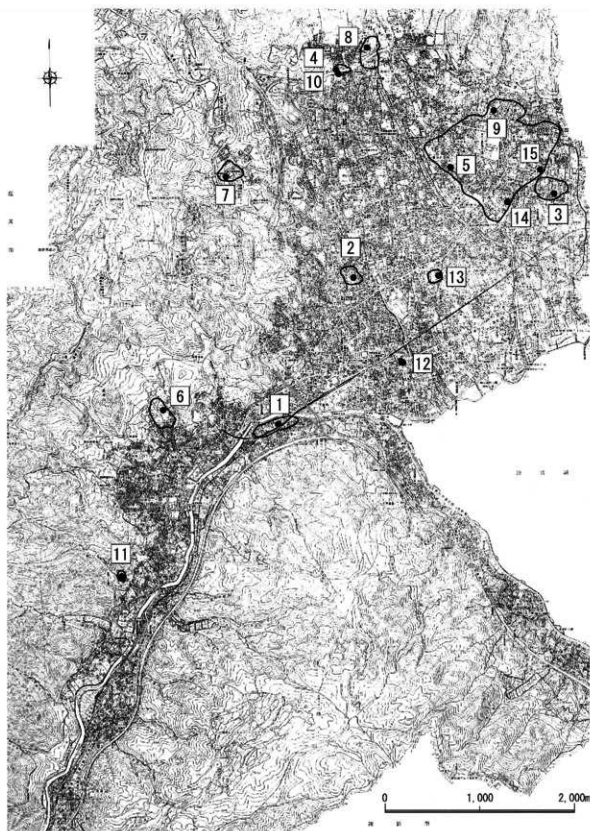
本年度、発掘調査を行ったなかでは、榎垣外遺跡片岡町地区の山道端地籍において、平安時代の住居跡1棟、小竪穴1基、掘建柱穴1基が発見された。当該地区は、奈良・平安時代には身分の高い官人の居宅域と考えられ、また、郡衙機能の衰退後も中世にかけて、集落が営まれていたことが判明している。住居跡や掘建柱穴の発見は、それらを考察していく上で重要である。

橋原遺跡の詳細分布調査では、弥生時代の住居址3棟が確認された。昭和53～55年に行われた調査の北側に隣接した大竜川に近い部分であったが、住居が確認できたことは、弥生時代の集落の広がりや構造を、より鮮明にできる良好な資料となった。

ほか、遺構・遺物の発見のない調査もあるが、遺跡の構造や性格を知る上では、それぞれに重要な資料が蓄積できた。

番号	調査期間	遺跡名	所在地	調査の原因	主な遺構・遺物	遺構遺物の時代	調査面積(m <sup>2</sup> )
1	4.16～5.2	磯原	川原東一丁目10261-3	詳細分布調査	弥生住3、土器片6箱、 石片1袋、重宝19枚、 72220点、鉄製品6点	弥生	146.5
2	5.30	外畷	山下町一丁目2686-5外	駐車場	土器片・石片、各1袋	縄文	8
3	6.4	東町田中	長地栄富三丁目487外	個人住宅建設	土器片1袋	縄文	24
4	6.21	上向C	宇上ノ原309-1	個人住宅建設	なし		74.25
5	6.25～7.30	榎垣外 片岡町(山道端)	長地片岡町二丁目2351-6	個人住宅建設	平安住1、小竪穴1、 掘建柱穴1、土器片2箱、 石片1袋、鉄製品8点	平安	12
6	7.9	西除入	川原上四丁目1263-1	個人住宅建設	なし		4
7	8.1	牛平	宇内山4769-541	資材置場	なし		5.4
8	8.3	上向A	長地宇上向6143-6外	個人住宅建設	土器片・石片、各1袋	縄文	8
9	8.27	榎垣外 山の平(中田)	長地榮久保二丁目4333-1	駐車場	土器片・石片、各1袋	縄文・平安	26
10	9.14～9.18	上向C	宇上ノ原314-2	駐車場	なし		12
11	11.9	新倉長塚	川原西一丁目3764-1	台席、駐車場	なし		10
12	11.14	清水権坂	田町一丁目	側溝工事	なし		24
13	12.5～12.7	榎垣外	榎垣東一丁目6302-1外	個人住宅建設	土器片1箱、石片1袋	縄文・弥生	12
14	12.18	榎垣外 金山東(上尾盛)	長地栄宮一丁目1591-5	個人住宅建設	なし		8
15	2.19～2.21	榎垣外 スコモ塚(丸見町)	長地栄3229	詳細分布調査	なし		

第1表 平成24年度試掘・確認発掘調査一覧表



第1図 試験・確認実験調査地点 (番号は第1表の一覧表に同じ) (1:40,000)

## 2. 榎垣外遺跡 片間町地区 山道端地籍

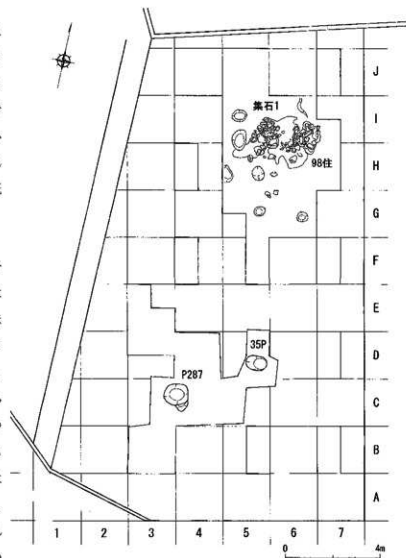
発掘調査の場所	岡谷市長地片間町二丁目 2351 - 6
発掘調査の期間	平成 24 年 6 月 25 日～平成 24 年 7 月 20 日
調査の原因	個人住宅建設
調査面積	74.25 m <sup>2</sup>
発見された遺構	平安時代 住居跡 1 棟、小竅穴 1 基、掘建柱穴 1 基
発見された遺物	土器片 2 箱、石片 1 袋、鉄製品 8 点

榎垣外遺跡は、岡谷市北東部の横河川扇状地の平坦部に、東西約 1.4 km、南北約 1.5 km の菱形を呈する範囲をもつ。山道端地籍はその南西部に位置し、周囲は古代律令期の人集落である。榎垣外遺跡は、縄文時代から中世に至る複合遺跡であり、最大の特徴は古代律令期の諏訪の郡（郡衙）であったのではないかとすることで、そうなると思わしき範囲において確実な郡衙は本遺跡と伊那郡衙（飯田市）の 2ヶ所だけということになり、当該期の解明にはごく重要な遺跡である。

片間町地区は、郡衙内で上級官人の居宅域と想定され、仏事に関する遺物発見も多いことから寺の存在も可能性があると考えられるが明確ではない。今回は、住居跡 1 棟と、小竅穴、掘建柱穴各々 1 基が発見された。以下に、発見された各遺構の概略を述べていく。

### 片間町地区 98 号住居跡

調査区北西隅に発見された住居跡であるが、カマド以外の施設は不明である。カマドは右組みでほぼ原形を保っていると考えられるが、部分的に粘土がみられており、粘土にくるまれていた可能性もある。幅、奥行きともに、約 1 m の規模をもち、焚口は東側と考えられるが、そこに被熱による赤化はみられず確証は得られなかった。このカマドは、住居西壁に築かれていたと考えられるが西壁のどの位置かは不明である。



第 2 図 榎垣外遺跡片間町地区遺構全体図 (1:160)

このカマドと、西側の集石1下部には、南北約2.2×東西約1.4m、および長さ約1.5mのごく不整形な床硬化面があり、床面の南には地山黄色砂礫層が赤化している部分があった。98住カマドは、あきらかにこの床面を壊して作られていて新しいと考えられ別の住居を想定せざるを得ないが、床以外の施設が検出されていないため不明な点が多い。

カマドおよび周辺から出土した遺物は、平安時代初期と平安時代後半の二時期があり、カマドは平安時代後半の構築と考えられ、床面は平安時代初期のものであろうか。遺物の中では、羽釜の破片が多くみられ時期決定の要因の一つとなった。

#### 片間町地区35号小竪穴

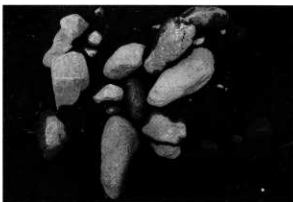
D-5グリットに見えられた小竪穴である。88cm×60cmの楕円形を呈し、深さ約23cmを測る。性格などは不明であり、後述するP287と同じ掘建柱穴かとも考えたが、様相が異なることから小竪穴とした。

#### 片間町地区掘建柱穴P287

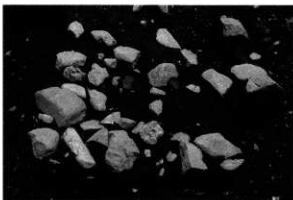
C-3～4グリットに見えられた。検出は、黄色砂礫層面であり、この層を掘り込んでいる。埋土は黒色土であるが、土色の違いから柱痕を検出した。P287は、110×106cmの円形を呈し、約42cmの深さがあった。柱痕は、ほぼ中央に、径34cmで16cmの深さに観察された。これに連なる柱穴は他で発見されていないため、規模等は不明である。約10m南には、3×3間の総柱建物（片間町地区掘建22）がある。

#### 集石1

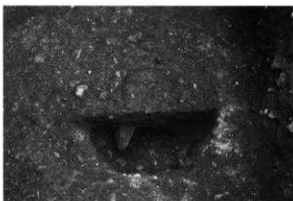
カマド西側に発見された。5cm程度の小石から、30cm程の人頭大の石までがあり、南北約160×東西約100cmに長方形を呈している。これらの石は、98住カマドと上端面で同じ高さであるが、下の床硬化面からはおおよそ20cm上方にある。集石には土師器片が混在している。カマドかとも思われたが、被熱の痕がなく考えにくい。混在する遺物からは98住と大差はなく、同時期の所産とも考えられるが、よくわからない集石である。



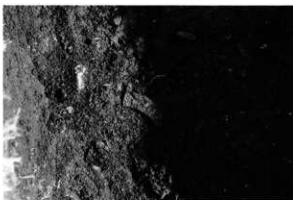
図版1 98号住カマド



図版2 集石1



図版3 掘建柱穴P287



図版4 鉄錐出土状態

## 報告書抄録

書名ふりがな	えのきがいといせきはつくつちょうさほうこくしょ (がいほう)
書名	榎垣外遺跡発掘調査報告書 (概報)
副書名	平成24年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内発掘調査報告書
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	長野県岡谷市教育委員会
編集機関	長野県岡谷市教育委員会
発行機関	長野県岡谷市教育委員会
発行年月日	20130319
作成機関 ID	20204
郵便番号	394-8510
電話番号	0266-23-4811
住所	長野県岡谷市幸町8-1
所収遺跡名ふりがな	えのきがいといせき
所収遺跡名	榎垣外遺跡
所在地ふりがな	ながのけんおかやしおさちかたまちょう
遺跡所在地	長野県岡谷市長地片間町二丁目2351-6
市町村コード	20204
遺跡番号コード	133
北緯	36° 04' 42"
東経	138° 03' 34"
調査期間	20120625-20120720
調査面積	74.25
調査原因	試掘・確認調査
種別	集落
主な時代	平安
遺跡概要	集落-平安-竪穴住居跡1+小竪穴1+掘立柱穴1-土器片+石片+鉄製品8
特記事項	